



平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年2月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 サンドラッグ
コード番号 9989 URL <http://www.sundrug.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 赤尾 主哉

問合せ先責任者 (役職名) 管理部長

(氏名) 加藤 好伸

TEL 042-369-6211

四半期報告書提出予定日 平成28年2月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	378,993	13.9	25,298	33.4	25,859	33.5	16,511	37.7
27年3月期第3四半期	332,775	0.5	18,961	△8.4	19,376	△8.5	11,992	△5.0

(注)包括利益 28年3月期第3四半期 16,562百万円 (37.8%) 27年3月期第3四半期 12,022百万円 (△4.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	273.18	273.18
27年3月期第3四半期	194.79	194.78

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
28年3月期第3四半期	213,755	128,332	60.0
27年3月期	189,688	115,987	61.1

(参考)自己資本 28年3月期第3四半期 128,279百万円 27年3月期 115,949百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	30.00	—	30.00	60.00
28年3月期	—	40.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	40.00	80.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	500,000	12.2	31,600	21.9	32,400	22.2	20,650	26.2	341.65

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料3ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

28年3月期3Q	67,165,592 株	27年3月期	67,165,592 株
28年3月期3Q	6,723,440 株	27年3月期	6,723,334 株
28年3月期3Q	60,442,239 株	27年3月期3Q	61,568,555 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(当期の経営成績)

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、政府や日銀による財政や金融政策により、企業収益や雇用環境の改善傾向が続き、緩やかな回復基調で推移したものの、不安定な国際情勢や中国・新興国・資源国をはじめとする世界経済の下振れ懸念、また国内における円安に伴う物価の上昇による消費マインドの低下など、経済環境は不透明な状況が続いております。

ドラッグストア業界におきましては、同業他社による積極的な出店や価格競争に加え、他業種からの参入やM&Aの動きが増加しつつあり、更に厳しい経営環境が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、引き続き、「安心・信頼・便利の提供」をキーワードに、お客様のニーズに応える質の高い出店やサービスレベルの向上、プライベートブランド商品の開発、新業態の開発、物流拠点の効率化や積極的な店舗改装並びに免税カウンター増設などに取り組み、活性化を図ってまいりました。

当第3四半期連結累計期間の当社グループ全体の出店などの状況は、45店舗を新規出店し、6店舗のスクラップ&ビルドを実施いたしました。また、59店舗で改装を行い、8店舗の閉店とフランチャイズ2店舗を解約し活性化を図りました。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間末の当社グループ全体の店舗数は、ドラッグストア事業799店舗（直営店613店舗、(株)星光薬局59店舗、(株)サンドラッグプラス54店舗、(株)サンドラッグファーマシーズ19店舗、フランチャイズ店54店舗）、ディスカウントストア事業215店舗（ダイレックス(株)215店舗）の合計1,014店舗となりました。

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高3,789億93百万円（前年同期比13.9%増）、営業利益252億98百万円（同33.4%増）、経常利益258億59百万円（同33.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益165億11百万円（同37.7%増）となり、増収・増益となりました。

セグメント業績等の概要は次のとおりであります。

<ドラッグストア事業>

ドラッグストア事業は、消費増税後の反動減の回復により化粧品等を中心に販売が増加いたしました。第3四半期に入り暖冬の影響で使い捨てカイロやハンドクリーム等の季節商材は苦戦いたしました。引き続き食品等の販売強化や都市部を中心に拡大するインバウンド需要への対応に注力したことにより、既存店売上高は前年同期を大きく上回りました。また、経費面においては、人時生産性向上や以前より取組んできた電気設備のLED化等による光熱費の削減など引き続き経費の削減に努めました。

なお、ドラッグストア事業の出店などの状況は、34店舗を新規出店し、3店舗のスクラップ&ビルドと42店舗を改装したほか、5店舗の閉店とフランチャイズ2店舗を解約し活性化を図りました。

以上の結果、ドラッグストア事業の売上高は2,789億20百万円（前年同期比13.8%増）、営業利益は193億56百万円（同30.5%増）となり、増収・増益となりました。

<ディスカウントストア事業>

ディスカウントストア事業は、消費増税後の反動減の回復により日用品、雑貨の販売が増加いたしました。第3四半期に入り暖冬の影響で灯油や季節家電・衣料品等は前年を下回りましたが、食品等の販売が好調に推移したことにより、既存店売上高は前年同期を大きく上回りました。また、引き続き医薬品等の販売に注力したことによる粗利益の改善や効率的な販売促進の見直しを図るなど経費の削減に努めました。

なお、ディスカウントストア事業の出店などの状況は、11店舗を新規出店し、3店舗のスクラップ&ビルドと17店舗の改装、3店舗の閉店を実施し活性化を図りました。

以上の結果、ディスカウントストア事業の売上高は1,228億64百万円（前年同期比14.2%増）、営業利益は59億43百万円（同44.1%増）となり、増収・増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ240億67百万円増加し、2,137億55百万円となりました。主な要因は、現金及び預金が増加したこと等によるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ117億22百万円増加し、854億23百万円となりました。主な要因は、買掛金等の増加等によるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ123億44百万円増加し、1,283億32百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年11月9日に公表しました通期連結業績予想に変更ありません。

(注) 業績の見直しにつきましては、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は見直しと大きく異なることがあります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は法人税等に含めて表示しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

(企業結合に関する会計基準等の適用)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日。以下「企業結合会計基準」という。)、
「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日。以下「連結会計基準」という。)及び
「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日。以下「事業分離等会計基準」という。)等を、第1四半期連結会計期間から適用し、支配が継続している場合の子会社に対する当社の持分変動による差額を資本剰余金として計上するとともに、取得関連費用を発生した連結会計年度の費用として計上する方法に変更いたしました。また、第1四半期連結会計期間の期首以後実施される企業結合については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の配分額の見直しを企業結合日の属する四半期連結会計期間の四半期連結財務諸表に反映させる方法に変更いたします。加えて、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

企業結合会計基準等の適用については、企業結合会計基準第58-2項(4)、連結会計基準第44-5項(4)及び事業分離等会計基準第57-4項(4)に定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首時点から将来にわたって適用しております。

なお、当第3四半期連結累計期間において、四半期連結財務諸表に与える影響額はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	34,640	50,725
売掛金	5,516	7,584
商品	57,366	61,033
原材料及び貯蔵品	56	66
その他	15,823	15,336
貸倒引当金	△8	△11
流動資産合計	113,394	134,734
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	28,822	29,852
その他(純額)	15,896	16,606
有形固定資産合計	44,719	46,458
無形固定資産		
のれん	512	421
その他	4,270	4,367
無形固定資産合計	4,782	4,788
投資その他の資産		
敷金及び保証金	16,244	16,939
その他	10,552	10,839
貸倒引当金	△4	△4
投資その他の資産合計	26,792	27,773
固定資産合計	76,293	79,020
資産合計	189,688	213,755

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	49,729	60,081
未払法人税等	4,800	4,515
役員賞与引当金	-	120
ポイント引当金	2,627	2,864
その他	10,634	12,049
流動負債合計	67,791	79,630
固定負債		
退職給付に係る負債	1,004	696
資産除去債務	2,470	2,606
その他	2,433	2,488
固定負債合計	5,909	5,792
負債合計	73,700	85,423
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,931	3,931
資本剰余金	7,409	7,409
利益剰余金	121,431	133,712
自己株式	△13,601	△13,602
株主資本合計	119,170	131,450
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	96	103
土地再評価差額金	△3,261	△3,261
退職給付に係る調整累計額	△56	△13
その他の包括利益累計額合計	△3,221	△3,170
新株予約権	38	52
純資産合計	115,987	128,332
負債純資産合計	189,688	213,755

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	332,775	378,993
売上原価	252,906	286,268
売上総利益	79,869	92,724
販売費及び一般管理費	60,907	67,426
営業利益	18,961	25,298
営業外収益		
受取利息	94	102
受取配当金	6	7
固定資産受贈益	209	336
その他	111	121
営業外収益合計	420	567
営業外費用		
支払利息	4	5
その他	0	0
営業外費用合計	4	6
経常利益	19,376	25,859
特別利益		
違約金収入	3	14
退職給付制度終了益	-	34
受取補償金	7	-
その他	1	0
特別利益合計	11	48
特別損失		
固定資産除却損	68	213
賃貸借契約解約損	18	29
減損損失	8	111
その他	0	3
特別損失合計	95	358
税金等調整前四半期純利益	19,292	25,550
法人税等	7,299	9,038
四半期純利益	11,992	16,511
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	11,992	16,511

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
四半期純利益	11,992	16,511
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	20	7
退職給付に係る調整額	9	43
その他の包括利益合計	29	50
四半期包括利益	12,022	16,562
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,022	16,562
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	ドラッグストア 事業	ディスカウント ストア事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	225,166	107,609	332,775	—	332,775
セグメント間の内部売上高 又は振替高	19,939	24	19,964	△19,964	—
計	245,105	107,633	352,739	△19,964	332,775
セグメント利益	14,837	4,125	18,962	△1	18,961

(注)1. セグメント利益の調整額は、全額セグメント間取引消去によるものであります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	ドラッグストア 事業	ディスカウント ストア事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	256,147	122,845	378,993	—	378,993
セグメント間の内部売上高 又は振替高	22,773	18	22,791	△22,791	—
計	278,920	122,864	401,784	△22,791	378,993
セグメント利益	19,356	5,943	25,299	△1	25,298

(注)1. セグメント利益の調整額は、全額セグメント間取引消去によるものであります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。